

もみ殻処理、1割向上

三陽機器が 農家向け11月販売



1時間当たり1トン以上の処理量を達成する

農業機械メーカーの三陽機器（岡山県庄町、寺前会長）は高性能のもみ殻すりつぶし機を開発した。もみ殻はたい肥などに活用しやすいよう表面の「ケイ酸質」というガラス質を壊す作業が必要だが、新製品ではその処理量を従来製品に比べ、1割高めた。もみ殻処理の作業能率向上につながるとして、主に全国の農家向けに十一月から本格販売する。

同社製品を使ったもみ殻処理では、まず高い圧力をかけてもみ殻同士をすり合わせる。表面のケイ酸質を壊す。こうすると、もみ殻の吸水性が向上し、家庭のふん尿と混ぜたり、すくんだり、たい肥などへの転用が可能になる。もみ殻をすりつぶす際、発生するセ氏約百度の熱で、雑菌や害虫も死滅する。

新製品「キミルML280」は「ハウジング」という白に当たる部分などの処理機構を改良し、すりつぶせる量が1時間当たり二百八十と、従来製品（同二百五十）より高まった。専用ノズルを取り換えればもみ殻の大きさを調整でき、たい肥のほかは土壌改良材や粗飼料など広範な用途に対応可能。価格は一台

百三万七千四百円。

「処理部に特殊な塗装し耐久性を高めた。破砕機や業務用草刈り機で、ランニングコストの低減にもつながる」と同社という。

三陽機器は農業機械を生産し、農機事業を強化する。同社は「一般の水田農家で、ほかに樹木剪定機や業務用草刈り機などを生産している。新製品は量産体制が整う十一月から本格的に販売している。